

みんながスパイクを打てるようになった授業
 (小学生による実践 2003年度)



1 学習のねらいと設計

【1】授業作りの方針

「バレーボールの面白さは、スパイクをすることにある」と考え、クラスの全員がゲームの中でスパイクを打つことができるゲームを考えた。

【2】ラリーゲームの教材化

場の工夫

ネットは低く バドミントンの支柱とネットをそのまま利用

教材配列の工夫

前半はペアグループでボールを落とさないように続けるゲーム。

後半は攻撃を組み立てて相手コートにスパイクでボールを落とすゲーム。

教具の工夫

ボールは柔らかいもの ソフトバレーボールやレクリエーションボール

2 展開の概要

第1時	第2時～第5時	第6時～第9時	第10時～第14時
オリエンテーション	ゲーム 「ザ・ラリー」 みんなでボールをつないで相手のコートに返そう ペアチームとラリーを続けよう	ゲーム 「ザ・アタック」 セッターにボールを集め、スパイクを決めよう	ゲーム 「123・バレー」 ローテーションを取り入れ、レシーバー・セッター・アタッカーの順に3段攻撃を組み立てよう

コート・人数

広 さ バドミントンダブルスのコートを利用

ネットの高さ バドミントンの高さ

人 数 3人(人数調整で2人または4人になる場合もある)

ボール

ゲーム バルザック(ゴム風船に布のカバーをつけたもの)

ゲーム ソフトバレーボール・レクリエーションバレーボール

(50g:ビニール製~200g:ゴム製まで ...実態に応じて)

3 課題ゲームの例

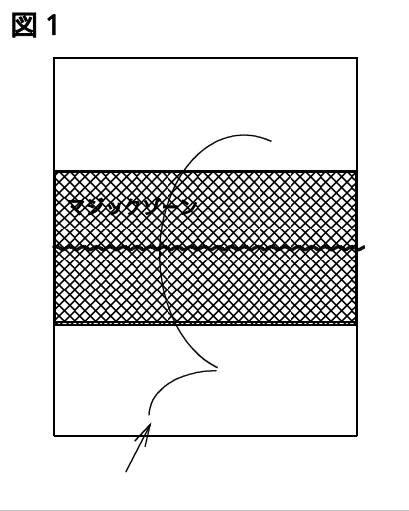
ゲーム 「ザ・ラリー」

サービス 両手による下手投げでの投げ込み
味方のトスを打って
自分でトスを上げて打って 等
相手コートの後方へ入れなければならない。

レシーブ サービスをワンバウンドさせてからレシーブする

サービス時にはコート外に出て待機している。
同じ人が2回続けてボールに触れてはならない。
床に落ちて良いが、続けて2回バウンドさせてはいけない。

アタック 2回～5回で相手コート後方へ返球する。



ゲーム 「ザ・アタック」

サービス ゲーム と同様

レシーブ ゲーム と同様

セッターはマジックゾーン内にいて良い。

レシーブしたボールはバウンドも入れて5回以内にマジックゾーン内にいるセッターまで返す。

トス セッターはマジックゾーン内でのみボールをキャッチしてトスすることができる。

セッターに返すボールは必ずノーバウンドで渡すようにする。

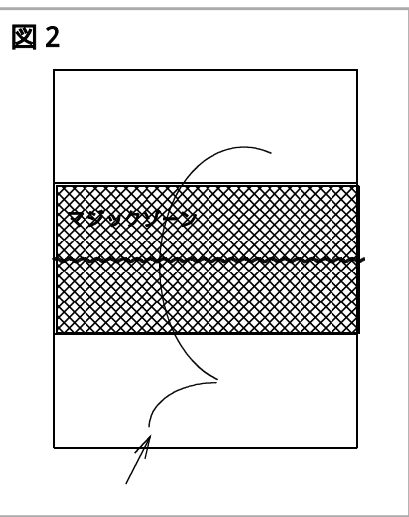
ワンバウンドの場合はキャッチできない。

スパイク トスされたボールはノーバウンドで相手コートに返す。

マジックゾーン内より後方に返球すること。

ブロック 相手コート内に落ちれば有効とする。

マジックゾーン内に返球されたものも認める。



ゲーム 「123バレー」

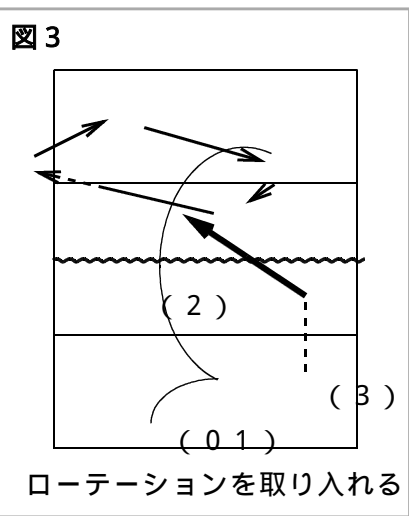
サービス ゲーム と同様

レシーブ(1)「イチ」「ゼロ・イチ」

コート内どこにいてもよい。だれがレシーブしてもよい。バウンド(0)させてもさせなくてもよい。セッターに返すが直接返らない場合はもう一度他の人がレシーブしてよい。(カバー)

トス(2)「ニ」

コート内どこでキャッチしてもよい。その場が



ら動かず（向きは変えてよい）トスアップする。

セッターは固定ではない。2回目のボールをプレーする人ならだれでもボールをキャッチしてよい。

セッターにボールが渡る前に、レシーバーが2度（3度）カバーによりプレーすることも可能。

スパイク（3）「サン」

片手打ち、あるいは両手のオーバーハンドパスにより、相手コートに返す。相手コート内ならどこへ打ち返してもよい。

ブロック ゲーム と同様

3段攻撃

必ず「1・2～・3」のリズムで相手コートへ返す。

1あるいは2の時に相手コートに返ったボールはミスとなる。

ゲーム中、自分のコート内では必ず「1・2～・3」あるいは「0・1・2～・3」または「0・1（カバー）0・1（またカバー）0・1・2～・3」のリズムが生まれる。

ローテーション

サーブ権ありとし、サーブ権が移動するたびにローテーションをする。

4人（5人）チームの場合は、コート外に待機していた人がローテーションによりコート内に入る。（3人でゲーム）

4 実践の様子

この単元は、2年間にわたって実施している。ゲーム・は、4年生あるいは5年生で実施。ゲームは次の学年で実施している。

ただし、ゲーム・を経験していない6年生で、1学期にゲーム・を4時間経験し、2学期にゲームを6時間実施したが、見事にこの教材でねらっていたとおりの姿が現れた。

「ザ・アタック」については、昨年度の実践報告ですでに詳しく述べてあるので、今回は「123バレー」について様子を述べる。



（1）単元名「123バレーボール」

（2）実施学年 6年生 3クラス（27名・27名・26名）

（3）チーム分け 8チーム編成（1チーム3人あるいは4人）

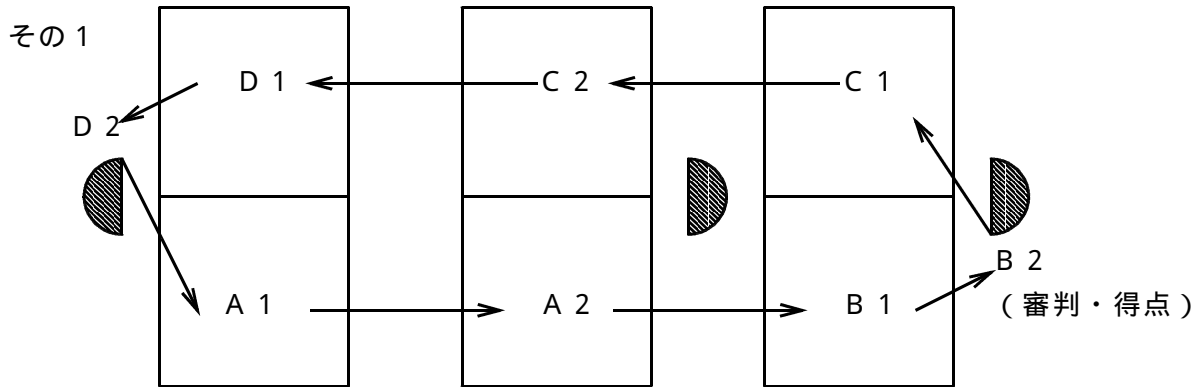
（4）コート 体育館にバドミントンコート3面

（5）ボール レクリエーションバレーボール 12個

（6）ルール 基本的にゲームのルールでラリーポイント11点マッチ

学級によりカバーの定義、ブロックの人数など、子ども達との話し合いで若干変動あり

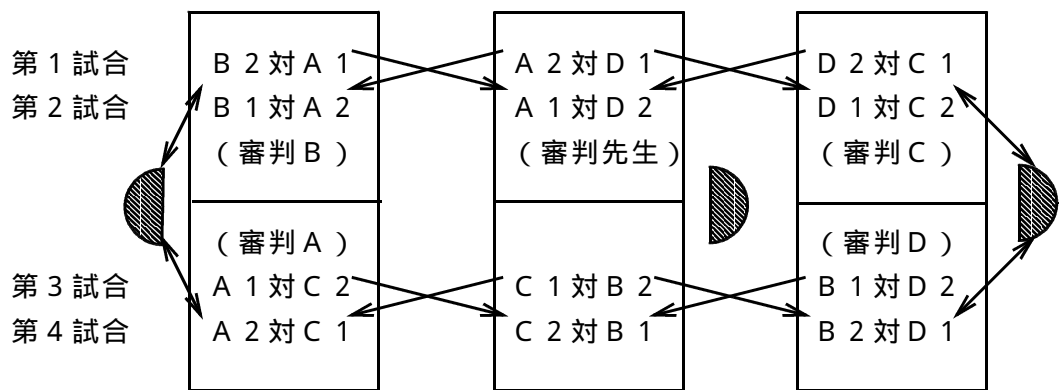
(7) ゲームの進め方



先生は真ん中のコートで審判及び得点を受け持つ。1時間の授業で4試合(ローテ)させることができれば、全てのチームのゲームを観察することができる。

4試合で総当たり戦の半分を消化できる。

その 2



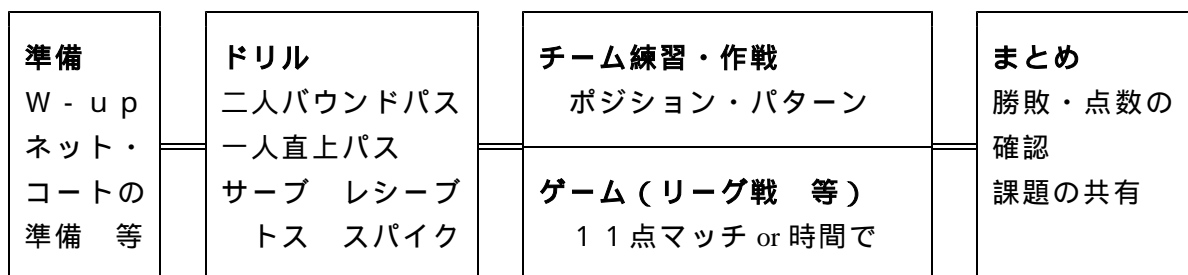
その 1・その 2 を実施することで、総当たり戦全てが消化できる。

先生は、全てのチームのゲームを見ることができる。

得点を付けているのがペアチームなので、応援やアドバイスができる。

1時間に4試合は時間的に厳しくなるので、1時間に2試合とし、ドリルやチーム練習の時間をじっくりとった方がよい。(4時間で総当たり完了)

(8) 1時間の授業の流れ



(9) 子ども達の姿から
ルールに関して

簡単で楽しかった。(K R 男)
簡単で面白い。ブロックできた。レシーブができた。
(M K 男)



とあるように、普段あまり積極的にボール運動に関わらない子や、授業に参加していない子にとっても好評だった。しかし、次のような感想も見られた、

最初は意味が分からなかったけど、だんだん意味が分かってきた。でも、あまりうまくならなかった。(M A 子)
結構勝てて嬉しかった。困った事は、ルールは少し分かっているけど、難しいところがまだよく分からない。またやりたい。(N M 子)

ルール上一番トラブルがあったのが、サービスボールをセッターに返そうとするのだが、大きすぎてダイレクトで返ってしまった時や、セッターがトスを上げたのだが、そのボールがネットを越えて相手コートに入ってしまった時(どちらも「1・2・3」のリズムになっていないため、相手チームのポイント)である。お互いにルールに対してあやふやであると、ダイレクトできたボールをスパイクしてしまったり、レシーブしてしまったりと、プレーを継続させるため、混乱が起こった。

スパイクに関して



みんながスパイク&レシーブができるようになってきているゲームだと思った!スパイクを打ったら、みんなが「スゲー」とか言ってくれた。
(M M 子)

スパイクを打っても止められた。スパイクの練習をしてスパイクが上手になった。(I A 子)
「楽しかった事」スパイクを決めた時気持ちよかった。「嬉しかった事」スパイクが決まった時先生や友達にほめてもらった事。「困った事」チームが弱くて勝てなかった事。(H A 子)

この授業の一番のねらいである「スパイク」は、どのクラスでも全員が経験する事ができた。スパイクは目立つプレーで、成功・失敗もわかりやすいので、友達の反応もストレートに返っていった。

5年生までの授業では、立ったまま(ジャンプせずに)スパイクをする児童も結構見られたが、今回の実践では、女子も含めて多くの子がジャンプしてスパイクする姿が見られていた。ドリルとしてスパイク練習を取り入れた事も多少影響はあるかと思われるが、一

番影響を与えたのはちょうどこの時期に放映されていた「ワールドカップバレーボール」であったと思われる。ルール面では混乱があったが、個人のプレーとしてはイメージを持つ上で大変良かった。

ブロックに関して

ブロックが頻繁に現れるゲームになるとは全く予想していなかったのだが、この6年生の授業では、必ずと言っていいほどスパイクに対してブロックがつき、今までの経験や得意・苦手にかかわらず、積極的にボールを止めにいっていた。どのクラスの授業でも、すごいスパイクを打つ児童ほどたくさん止められていた。また、その止めている児童が、普段のボールゲームではあまり活躍していない児童であったりして、周囲に歓声と感動を与えていた。



ブロックで顔にボールが当たったけど、自分のチームに点が入ったから嬉しかった。教室に帰ったら微妙に鼻血が出ていた。(NA子)

チームの仲が悪くて困る。心に残った事は、ブロックでEちゃん(ミニバレー経験者)のスパイクを2回も3回も止められた事が心に残った。(GM子)

綺麗な、きちんとミートしたスパイクほど止めやすいようだった。顔面でのブロック・真下へたたき落とすブロックなど、珍プレー好プレーが続出した。

レシーブに関して

スパイクが来る時(レシーブする時)すごくドキドキして面白い。すごく簡単でドキドキして、面白くていい。いいプレーがいっぱい出た。(MY男)

相手のスパイクを取るのが楽しかった。もちろん、自分でスパイクをするのも楽しかった。点を入れられるのはくやしかったけど、1点ずつ返していったので良い試合ができた。もう2~3回はやりたいです。(KY男)

いつもはボールにあまり触れないけど、「123バレー」だと、ボールに触る回数が多くなって良かった。楽しかったのでまたやりたい。

相手のスパイクを拾う事に喜び見いだす事ができるようになっていった。また、セッターがボールをキャッチしてくれるので、安心してレシーブができていた。ワンバウンドしてからレシーブするため、低い姿勢でボールの下に入り込む姿が見られた。

4 実践を終えて

「チームの人がほめてくれない。怒るだけでいやだったから楽しくない。あんまりボールに触れなかった。触ると失敗して怒られるかもしれないと思ったから。1勝もできなくてつまなかった。(TH子)」という子もいた。この子に対して単元中なんら有効な手だてが用意できていなかった事が一番の反省点である。